

熊本大学拠点形成研究「心の可塑性研究ユニット」
熊本大学大学院先導機構人文社会科学系国際共同研究拠点

国際シンポジウム

高齢者の ライフスタイルと 脳のはたらき

入場無料

月浦 崇 准教授 (京都大学大学院人間・環境学研究科)

「記憶に伴う脳活動の加齢変化、そして高齢者のライフスタイルが記憶機能に及ぼす影響」

Michael D. Rugg 教授 (University of Texas at Dallas, USA)

「成人生涯発達におけるエピソード記憶の個人差：脳機能画像化研究からの証拠」

積山 薫 教授 (熊本大学文学部)

「視覚-運動経験による認知機能の発達、適応、維持」

Kristine B. Walhovd 教授 (University of Oslo, Norway)

「脳と認知の生涯発達に関するMRI研究：変化の原理、そして変化に影響を与えることはできるか？」

* 講演は英語ですが、英語と日本語のスライドを並べて表示いたします。

日時： 2014年 10月 19日 (日) 13:00～17:10

場所： 熊本大学工学部百周年記念館 (黒髪南地区)

問合せ： 熊本大学大学院先導機構 国際共同研究拠点 人文社会科学系担当 佐藤
c-sato@jimu.kumamoto-u.ac.jp 096-342-2480

講演者紹介(学外)



Michael D. Rugg

アメリカ テキサス大学ダラス校 教授 (Professor, University of Texas at Dallas, USA)

イギリス・レスター大学博士課程修了、心理学博士。セントアンドリュース大学心理学部教授、ロンドン大学認知神経学部教授および同大学ウェルカム・トラストセンター主任研究員、カリフォルニア大学アーバイン校神経生物学部教授および同大学学習と記憶の神経生物学センター長を経て、現職に至る。

【研究テーマ】ヒトの記憶の認知神経科学。加齢や病気がヒトの記憶にどのように影響するのかについて、脳機能画像法(fMRI)、脳波(ERP)、磁気刺激(TMS)などの手法を用いて研究をおこなっている。高齢者の脳がどのように記憶を覚え、思い出しているのかに関する基礎的な知見から、将来的に記憶低下を示す可能性のある高齢者を同定するなど応用的な知見まで明らかにしようと取り組んでいる。



Kristine B. Walhovd

ノルウェー オスロ大学 教授 (Professor, University of Oslo, Norway)

ノルウェー・オスロ大学博士課程修了、心理学博士。オスロ病院神経心理学部門臨床神経心理士・研究員、オスロ大学心理学部准教授および同大学電気生理学研究室研究主任を経て、現職に至る。

【研究テーマ】ヒトの脳の構造や、発達・加齢・病気によって生じる脳活動パターンの変化が認知機能に与える影響について研究をおこなっている。神経心理学、認知心理学、脳機能画像法(fMRI・ERP・PET)、脳脊髄液バイオマーカー、遺伝子タイピングなど多様な研究手法を用いている。



月浦 崇

京都大学大学院 人間・環境学研究科 准教授

東北大学大学院医学系研究科博士課程修了、障害科学博士。独立法人産業技術総合研究所研究員、アメリカ・デューク大学認知神経科学センター客員研究員、東北大学加齢医学研究所准教授を経て、現職に至る。

【研究テーマ】ヒトのエピソード記憶の認知神経科学。脳機能画像法(fMRI)を用いて、加齢とエピソード記憶、社会的文脈とエピソード記憶に関わる脳の活動パターンについて研究をおこなっている。また大脳損傷症例を対象としたエピソード記憶の神経心理学的研究もおこなっている。

講演者紹介(学内)



積山 薫

熊本大学文学部 教授

大阪市立大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程修了。文学博士。ATR視聴覚機構研究所、金沢大学文学部助手、アメリカ・マサチューセッツ工科大学客員研究員、公立はこだて未来大学システム情報学部教授を経て、現職に至る。

【研究テーマ】ヒトの身体認知、空間認知、音声コミュニケーションなどに関する認知神経生涯発達。感覚運動経験や言語文化的経験が認知システムの形成や脳の活動に与える影響について、心理学的な手法と脳機能画像法(fMRI・ERP)を併用して研究をおこなっている。